

**OL Summary:** **I.** エレミヤ書は、神が入って来て、諸国民を罰し裁く絵を提示しています。諸国民はこの世の各面を予表します。A 諸国民についての語りかけにおいて、エレミヤは最初にエジプトを述べ、最後にバビロンを述べています。神から見ると、この世はまずエジプトに属し、それからバビロンに属しています/エレミヤ書の絵によると、最後に裁かれる国はバビロンです。神がバビロンを裁くとき、諸国に対する神の裁きは完成します。B 神のエコノミーを完成するために、神の新約の選民である召会は、この世のあらゆる面から分離されなければなりません。

**II.** エレミヤ46:2-28は、エジプトに対する神の裁きについて語っています。A エジプトが予表するのは、生計を立てる、享樂のこの世です。エジプトの支配者パロが予表するこの世の支配者サタンは、このような世を用いて、神のエコノミーのために神が選んだ人を占有し、強奪しています。エジプトという国は、暗やみの王国、暗やみの権威を表徴します/この世は享受の源ではなく、暴虐の地です。この世のあらゆる面はどれも一種の暴虐です/この世の中で、サタンは神の選ばれた民を、神の定められた御旨を完成するために定められた人たちを、サタンの強奪する手の下に掌握しています/生存することは一つの事であり、神の定められた御旨のために生存することはもう一つの事です/サタンは人を強奪して、人が自分の生存だけを顧みて、人の生存における神の定められた御旨を顧みないようにさせています/神が私たちに召した目的の一つの面は、私たちを用いて、他の人たちをサタンおよびこの世の強奪と暴虐から連れ出すことです。B この世は邪悪な体系であり、サタンが体系化した案配です。神はご自身の定められた御旨を成就するために、人を創造して地に住まわせました。しかし神の敵サタンは、神の創造された人を強奪するために、文化、教育、工業、商業、娯楽、宗教をもって、人を体系化することによって、神に反対するこの世の体系を地上に形成しました/サタンは地上のすべてのもの、特に人類と関係のあるもの、また空中のすべてのものを体系化して、彼の暗やみの王国とならせ、人々を占有し、人々を妨げて神の定められた御旨を完成させないようにし、人々をそらして神を享受させないようにしています/この世は父なる神に抵抗しており、世にあるものは神のみこころに抵抗しており、世を愛する者は神の敵です/「全世界」、サタンの体系は、「邪悪な者の中に横たわって」います/「全世界」は、サタンのこの世の体系と世の人々(墮落した人類)から成っています/「横たわって」とは、邪悪な者の勢力範囲の中で、彼の強奪と操縦の下で、受け身的にとどまっていることを意味します/ Iヨハネ5:19で「邪悪」と訳されたギリシャ語は、致命的で、害を与える邪悪な者、人に影響を与えて、悪い墮落した者にしてしまう者のことを言います。そのような邪悪な者とはサタン、悪魔であって、全世界はその邪悪な者の中に横たわっています/サタンは物質の世、この世の中にあるものを利用して、最終的に反キリストの王国の中へとあらゆるものを帰属させます。その時、この世の体系はその頂点に達し、その時、そのあらゆる構成単位は反クリスチャンのものであることが明らかにされます/サタンの邪悪なこの世の体系、暗やみの王国は、キリストの十字架上の働き

を通して裁かれました/主は罪の肉の様での十字架上の死を通して、人の肉の中にあるサタンを滅ぼしました/サタンを裁くことによって、主はまたサタンの上に掛かっているこの世を裁きました/主が十字架の上に上げられることは、この世が裁かれ、この世の支配者であるサタンが追い出されるようにしました。III. エレミヤ50章と51章は、バビロンに対する神の裁きについて語っています。A バビロンはバベルから始まりました。バベルで、サタンは人類に神に反逆させ、偶像を拜ませ、人の自己を高く上げさせました。バベルは、人が神に反逆し、人が偶像を拜み、人が自己を高く上げることの起源、源でした/バベルの継続はバビロンであり、バビロンは神の目に、人類の統治の完成です/バビロンの王ネブカデネザルは、サタンの具体化として、サタンと結合されて一になってさえました/バビロンは神の聖なる都と神の聖なる宮を破壊し、神の聖なる民と神の宮の器を捕囚へと運び去りました。B 啓示録17章と18章において、復興したローマ帝国は、大いなるバビロンと呼ばれています。バビロンには二つの面があります。啓示録17章は、宗教のバビロン、背教のローマ・カトリックについての啓示です/神の目に、ユダヤ教の多くのものを引き継ぎ、異教の多くのものを吸収したローマ・カトリックはバビロンです/17:1の遊女は、背教のローマ・カトリックです/神は背教の召会を憎んでいるので、大患難の初めに、反キリストとその十人の王に、ローマ・カトリックを滅ぼさせます/啓示録18章は、物質のバビロン、すなわちローマの都についての啓示です/啓示録17章と18章で、バビロンの二つの面、すなわち宗教の面と物質の面が一つに混合されています/17:16の遊女は、宗教のバビロンを意味し、ローマ・カトリックを表徴しています。18節の女は、物質のバビロンを意味し、ローマの都を表徴しています/物質のバビロン、ローマの都は、神の目に憎むべきものとなります。それは悪魔的な政治と悪魔的な宗教の源になっているからです/もうひとりの御使いであるキリストは、地を照らし、彼の大いなる権威をもって、大いなるバビロン、ローマの都を滅ぼします。C バビロンの原則は、人のものを神の御言葉と混合させることであり、肉のものを霊のものと混合させることです。バビロンは、神のものと偶像のものと混合です/バビロンの王ネブカデネザルは、エルサレムにある神の家を焼いて、神を礼拝するための神の家にあるすべての器を運び去り、それらをバビロンにある彼の偶像の宮に置きました/新約において、この混合は、大いなるバビロンをもって拡大されています/私たちは人の力と神の力が混合したあらゆる状況から、人の能力と神の働きが混合したあらゆる状況から、人の意見と神の言葉が混合したあらゆる状況から、出て来なければなりません。D 大いなるバビロンには、二つの倒壊があります。宗教のバビロンの倒壊と、物質のバビロンの倒壊です。宗教のバビロンの倒壊は、大患難の初めに起こります/物質のバビロンの倒壊は、大患難の終わりに起こります/啓示録19:1-4の賛美は、おもに物質のバビロンの倒壊に対するものではなく、宗教のバビロンの倒壊に対するものです。なぜなら、神の目に、宗教のバビロンは、物質のバビロンよりもさらに憎むべきものであるからです。E 神がバビロンを裁くのは、バビロンのものが全く宇宙に残らない程度にまでです。

**CP1:暗闇から光へ移された私たちは、暴虐の地、この世から出て来て、神のエコノミーを遂行する**

**エレミヤ46:25** 万軍のエホバ、イスラエルの神は言われる、「見よ、私はノのアモンとパロとエジプトとその神々と王たちを、パロと彼に依り頼む者たちをも罰する。**ヨハネ17:14** 私は彼らにあなたの言を与えましたが、世は彼らを憎みました。それは、私が世のものではないように、彼らも世のものではないからです。

**12:31** 今は、この世が裁きを受ける時である。今、この世の支配者は追い出される。

**OL1:**諸国民についての語りかけにおいて、エレミヤは最初にエジプトを述べ、最後にバビロンを述べています。神から見ると、この世はまずエジプトに属し、それからバビロンに属しています。エレミヤ書の絵によると、最後に裁かれる国はバビロンです。神がバビロンを裁くとき、諸国に対する神の裁きは完成します。**OL2:**神のエコノミーを完成するために、神の新約の選民である召会は、この世のあらゆる面から分離されなければなりません。

**OL3:**エジプトが予表するのは、生計を立てる、享樂のこの世です。エジプトの支配者パロが予表するこの世の支配者サタンは、このような世を用いて、神のエコノミーのために神が選んだ人を占有し、強奪しています。エジプトという国は、暗やみの王国、暗やみの権威を表徴します。この世は享樂の源ではなく、暴虐の地です。この世のあらゆる面はどれも一種の暴虐です。**OL4:**この世の中で、サタンは神の選ばれた民を、神の定められた御旨を完成するために定められた人たちを、サタンの強奪する手の下に掌握しています。生存することは一つの事であり、神の定められた御旨のために生存することはもう一つの事です。サタンは人を強奪して、人が自分の生存だけを顧みて、人の生存における神の定められた御旨を顧みないようにさせています。神が私たちを召した目的の一つの面は、私たちを用いて、他の人たちをサタンおよびこの世の強奪と暴虐から連れ出すことです。

エレミヤは神のエコノミーを私たちに提示して、私たちを自分の源と起源、すなわち生ける水の源泉である三一の神に戻します。そして私たちは彼を享受し、彼の分与を私たちの中へと受けて、彼のエコノミーを完成します。そして神はこの世を私たちから遠ざけようと顧みてくださいます。今日私たちの召会生活の中に、バビロンのようなものは何もあべきではありません。私たちは、神に対するいかなる反逆も、自分自身を高く上げるいかなることも、いかなる偶像を拜むことも一掃すべきです。そうすれば私たちは神の分与の下で神の選民となり、彼を享受するでしょう。エジプトを私たちの生活のための良き場所として享受するのではなく、私たちは三一の神を享受し、そして召会生活が私たちの生活となるでしょう。そのような状況において、私たちは神によって祝福されるでしょう。

**適用:新人及び青少年・大学生編**

**使徒26:18** 彼らの目を開き、彼らを暗やみから光へ、サタンの権威から神に立ち返らせるのである。それは、私にある信仰によって、彼らが罪の赦しと、聖別された人たちの間での嗣業を受けるためである。

FN「**彼らの目を開き**」:神の福音の祝福、新約のヨベルの霊的で神聖な祝福の第一項目は、墮落してい

る者たちの目を開き、彼らを暗やみから光に立ち返らせることです。それは、彼らが霊的領域の神聖な事柄を見るためです。これらのものを見るためには、霊的な視力と神聖な光が必要です。

使徒26:18には、二つの対比があります。「暗闇と光」と「サタンの権威と神(の権威)」です。更に、対比だけでなく移動も啓示しています。この移動はなんと栄光な移動でしょう! 例えば、超ブラック企業から最優良企業に転職できたなら、あなたは大喜びするでしょう。しかし、「暗闇から光へ」、「サタンの権威から神(の権威)へ」の移動はそれよりはるかに驚くべき移動です。実際には超ブラック企業から最優良企業への移動はあり得ないことですが、それを遥かに上回る考えられないほど素晴らしい移動が、主イエスを信じた時にあなたに起こりました。

このことは人知を遥かに超えた祝福なので、多くのクリスチャンはそれを正当に理解していません。どうか主があなたと私の目を開いてくださいますように。**エペソ1:17** どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の御父が、知恵と啓示の霊をあなたがたに与えて、あなたがたに彼を十分に認識させ、**18** あなたがたの心の目が照らされ、神の召しの望みがどんなものであるかを、あなたがたが知るように。**19** また神の力強い大能の活動にしたがって、信じる私たちに働く彼の力が、どんなに超越して偉大であるかを知るように。

この卓越した、驚くべき移動の価値を理解すれば、あなたは我を忘れて主に感謝し、賛美し、喜んで自分自身と全生涯をキリストと召会に捧げるでしょう。従って、エジプトやバビロンで予表されるこの世を愛さず、この世から出てくるために、先ず、積極面で神のエコノミーの中のキリストと召会の価値を知り、経験すべきです。

次に、この世はサタンの体系であり、享樂の源ではなく、暴虐の地であることを認識すべきです。この世のあらゆる面はどれも一種の暴虐です。あなたは神のエコノミーを完成するために、あなたを占有するこの世の体系から出てくる必要があります。更に、他の人を助けてサタンの強奪から連れ出す必要があります。

例えば、学生の本分は勉強であり、社会人の本分は仕事ですので、人は勉強や仕事に真剣に取り組まなければなりません。しかし、勉強が忙しいので、あるいは仕事の残業のために、召会の集会に行く時間や朝毎の復興をする時間がないと考えるなら、勉強や仕事があなただを占有するこの世になっています。あなたが学生であれ、ビジネスパーソンであれ、人の生存の意義は、神で満たされ、神を表現し、神を代行することです。従って、時間を聖別して、毎日主を享受すること、毎週集会に参加することを実行してください。更に他の人を助けて、聖書を共に読み主を享受させ、集会に連れて来てください。

祈り:「主よ、暗闇から光へ、サタンの権威から神へと移動して下さったことを感謝します。この驚くべき移動の価値を見て、さらに主と召会を尊び、自分自身を主に捧げます。勉強や仕事は私の本分ですが、これらが私の召会生活を妨げるなら、勉強や仕事は私にとってこの世になっています。この世から出て、神で満たされ、神を表現し、神を代行することができますように。そして他の人を助け、サタンの強奪から連れ出すことができますように。」

**CP2: 思いを霊に付け、思いが更新され、価値観が  
変えられ、神が忌み嫌っているバビロンから出て来る**

**Iヨハネ2:15** 世と世にあるものを愛してはいけません。だれでも世を愛するなら、御父への愛は彼の中にありません。**ヤコブ4:4** 姦婦たちよ、あなたがたが世の友となるのは、神への敵対であることを知らないのですか？ですから、だれでも世の友であろうとする者は、神の敵になるのです。**啓18:4** 私の民よ、彼女から出よ。それは、あなたがたが彼女の罪に加わらないためであり、また、あなたがたが彼女の災害を被らないためである。**19:2-3** 「彼の裁きは真実で義である。彼は、淫行をもって地を墮落させたあの遊女を裁き、彼女の手で流された彼の奴隷たちの血の報復をされたからである」。…彼らは言った、「ハレルヤ!彼女の煙は永遠にわたって立ち上る」。

**OL1:**神はご自身の定められた御旨を成就するために、人を創造して地に住ませました。しかし神の敵サタンは、神の創造された人を強奪するために、文化、教育、工業、商業、娯楽、宗教をもって、人を体系化することによって、神に反対するこの世の体系を地上に形成しました。

**OL2:**啓示録17章と18章で、バビロンの二つの面、すなわち宗教の面と物質の面が一つに混合されています。17:16の遊女は、宗教のバビロンを意味し、ローマ・カトリックを表徴しています。18節の女は、物質のバビロンを意味し、ローマの都を表徴しています。大いなるバビロンには二つの面があるので、彼女から出るとは、宗教のバビロンと物質のバビロンから出るとを意味します。

**OL3:**物質のバビロン、ローマの都は、神の目に憎むべきものとなります。なぜなら、それは悪魔的な政治と悪魔的な宗教の源になっているからです。**OL4:**もうひとりの御使いであるキリストは、地を照らし、彼の偉大な権威をもって、大いなるバビロン、ローマの都を滅ぼします。

私たちはみなこの世の明確なビジョンを持つ必要があります。私たちにとって、私たちが生存するために必要なものは、単なる地上のものであるかもしれませんが、あるいは、サタンの体系であるこの世になっているかもしれません。あなたが食べることに心を奪われるとき、食べることはあなたにとってこの世の項目となります。あなたが結婚に心を奪われるとき、結婚はあなたにとってこの世の項目となります。あなたが衣服、家、交通手段に心を奪われるとき、これらのものもあなたにとってこの世の項目となります。

**ローマ12:2**でパウロは言います、「この時代にかたどられてはいけません。むしろ、思いが新しくされることによって造り変えられなさい」。この時代にかたどられるとは、この世の現在の潮流に同形化されることです。私たちは現在の時代に同形化されるのではなく、思いが新しくされることによって造り変えられるべきです。

宗教のバビロンは、「奥義、大いなるバビロン、地の遊女どもと忌むべきものの母」として啓示されています。啓示録2:20で、彼女はイゼベルによって表徴されています。政治のバビロンと比較して、宗教のバビロン、背教のローマ・カトリックはとても奥義的です。その内側には神、キリスト、サタンがあります。それは名義上、神を告げ知らせ、救い主としてのキリストを告げらせています。しかし会員はその宣べ伝えを信じる時、サタンの秘密、奥義、深い事柄にもたらされ、偶像を礼拝します。

**適用: ビジネスパーソン・大学院生編**

若者にとって、就職や結婚はとても重要なことです。しかし、これらが重要なことであっても、これらによってあなたの心を奪われてはいけません。なぜなら、あなたが主よりも職業や結婚などを愛するなら、これらはあなたの心を占有するこの世となるからです。

例えば、あなたにある婚約者が主によってアレンジされました。あなたは、主とあなたを顧みている兄弟姉妹と交わりながら、この重要なプロジェクトを前進させる必要があります。ところが、サタンがこの背後で働いて、結婚の事柄で婚約者を通して、家族を通して、あるいはそれ以外のことを通して、あなたを攻撃して、「もっと派手な結婚式をしないと、両親が恥をかくのではないか?」、「結婚したら収入が一番大切なので、もっと残業しないといけなのではないか?」、「集会ばかりせずに、デートに休日のすべての時間を費やすべきではないか?」と話しかけてきます。サタンの攻撃の目的は、あなたを主と召会から引き離し、人を占有し、神のエコノミーを遂行できなくすることです。

このようになると、あなたの思いはサタンの体系であるこの世にかたどられてしまい、この世の束縛からなかなか出られなくなります。このような時、あなたは悔い改めて、結婚のプロジェクトからキリストと召会に向きを変える必要があります。そして、キリストと召会の交わりの中で、結婚のことを検討してください。最も重要なのは、キリストと召会の交わりです。そうすれば、その他のすべてのことは上手くいきます。アーメン!そして、あなたの思いを霊につけて、あなたが聞いてきた神のエコノミーのビジョンについて祈ってください。そうすれば、主はあなたの思いを更新し、神聖な価値観を持たせてくださいます。

若者たちは結婚を尊んでください。聖霊で油塗られることが真に神と人を尊ぶことです。従って、あなたは結婚を尊ぶために、霊の中で祈り、霊の中でデートして下さい。

**ヘブル 13:4** すべての人の間で結婚が尊ばれるようにしなさい。また床を汚してはいけません。なぜなら、神は淫行の者と姦淫する者を裁かれるからです。

**マタイ 3:2** 言った、「悔い改めよ、天の王国は近づいたからだ」。FN「悔い改め」:「悔い改め」とは、思いを変え、その結果、悔いて、目標を変えることです。バプテスマのヨハネの宣べ伝えにおける悔い改めは、神のエコノミーを開くことであり、天の王国のために一つの転換を持つことでした。これは、神の新約エコノミーが、彼の王国を中心としていることを示しています。このために、私たちは悔い改め、私たちの思いを変え、私たちの人生の追求に変化を持つべきです。私たちが求めていた目標は、別の事でした。今や私たちは、神とその王国に向きを変えなければなりません。

祈り:「おお主イエスよ、神の敵サタンは、教育、職業、結婚など、人の必要を用いて、神の創造された人を占有し、強奪しようとしています。この世の現在の潮流に同形化されることがないように、私の思いを更新し、神聖な価値観を持たせてください。私の思いが結婚や仕事で占有されないように、私が主と召会から引き離されることがないように、私の職業、結婚を主に捧げます。アーメン!」

**CP3: 神のものと人のものの混合であるバビロンから出て来て、良き地の心を持って、召会を繁栄させる**

**創 11:4** そして、彼らは言った、「さあ、町と塔を建てて、塔の頂を天に届かせよう。そして私たちのために名を挙げて、私たちが全地の面に散らされないようにしましょう」。エレミヤ 51:9 私たちはバビロンをいやそうとしたが、彼女はいやされない。彼女を捨てよ、それぞれ自分の地に行こう。まことに、その裁きは天に達し…。**61-62** あなたはバビロンに来るとき、…言いなさい、「エホバよ、あなたはこの所について語られました。すなわち、そこを断ち切り、…それが永遠の廃虚となるということです」。

**啓 11:15** 「世の王国は、私たちの主と彼のキリストの王国となった。彼は永遠にわたって王として支配される」。**21:2** 私はまた聖なる都、新しいエルサレムが、…天から出て神から下って来るのを見た。

**OL1:**バビロンの原則は、人のものを神の御言葉と混合させることであり、肉のものを霊のものと混合させることです。**OL2:**大いなるバビロンには、二つの倒壊があります。宗教のバビロンの倒壊と、物質のバビロンの倒壊です。**OL3:**神がバビロンを裁くのは、バビロンのものが全く宇宙に残らない程度にまでです。

バビロンの原則とは、人のものを神の御言葉と混合させることであり、肉のものを霊のものと混合させることです。それは、人のものを神のものに見せかけることです。それは人の欲を満たすために、人が栄光を受けることです。こういうわけで、バビロンは混合して墮落したキリスト教です。それでは、バビロンに対する私たちの態度はどうあるべきでしょうか？**啓示録 18:4**は言います、「私はまた、天からもう一つの声がこう言うのを聞いた、『私の民よ、彼女から出よ。それは、あなたがたが彼女の罪に加わらないためであり、また、あなたがたが彼女の災害を被らないためである』」。また、**Ⅱコリント 6:17**は言います、「それゆえ、『主は言われる、彼らのただ中から出て、分離されよ。また汚れているものに触れてはならない。そうすれば、私はあなたがたを喜び迎えよう』」。…神の御言葉によれば、神の子たちはバビロンの特徴を含むどんな事柄にもかかわることはできません。神は、人の力と神の力が混合したあらゆる状況から、人の能力と神の働きが混合したあらゆる状況から、人の意見と神の御言葉が混合したあらゆる状況から、出て来なければならないと言われました。

啓示録において、復興したローマ帝国は、大いなるバビロンと呼ばれています。大いなるバビロンには二つの面、すなわち政治の面と宗教の面があります。…大いなるバビロンの政治の面は、多くの物質的な事柄と、地上の貿易と商取引に関する多くの事柄を含んでいます。…終わりの時代に、この世の政治情勢は共産主義ではないでしょう。なぜなら、単なる国内商取引ではなく、国際貿易が栄えるからです。

旧約のエレミヤ書で、バビロンが来てエルサレムを滅ぼし、彼女を破壊し、荒廃させました。聖書の終わりの啓示録で、大いなるバビロンと新エルサレムがあります。最終的に、大いなるバビロンは破壊され、地から取り除かれ、火の池の中へと投げ込まれます。

**適用: 奉仕者編**

バビロンの原則とは、人のものと神のものを混合させることです。ローマ・カトリックは、聖書と、偶像や淫行など

の墮落した要素が混合しています。あなたは召会の奉仕に人の意見、高ぶり、野心、年功序列、男尊女卑、我がまま、凶々しさ、高ぶり、自分に栄光を帰すことなどの人のものを持ち込んではいけません。この混合が、神が罪定めするバビロンです。あなたは、「ちよっとぐらい、人なのだからいいのではないか」と心の中で言って、バビロンの原則を容認してはいけません。

「義しく裁き、内なる各部分と心を試される万軍のエホバよ」(エレミヤ 11:20)とあるように、神はあなたの心を見ておられます。それは心が神の言葉の種が成長する土壌であるからです。主はマタイ 13章で、4種類の心を啓示されました。**①**この世の往来によって固くされた道ばたの心、**②**隠れた罪や個人的欲望を持つ岩地の心、**③**思い煩いと富の惑わしに覆われないばらの地である心、**④**土地の隅々まで提供して御言葉を受け入れる良き地の心です。召会の奉仕をする時、主はあなたの心の中のこの世的な往来から来る固さ、隠れた罪と願望、思い煩いと金銭愛などを取り除くために、心を探り、試します。それはあなたが消極面ではバビロンの混合から出てくるためであり、積極面では良き地の心をもって多くの実を結ぶためです。

**兄弟の証し:**神戸に在る召会の人数が、70名ぐらいになるまでの経験について証します。毎年9月頃に、「増えてはいるがあまり増えていない」状況に危機感を持ち、強いられて主の御前に出て、「主よ、私はこの状況を容認できません。私の心の各部分を照らしてください。私の中の何が問題になり、召会の成長を妨げているのでしょうか？ 私の隠れた罪、欠点、弱さを暴露してください」と祈りました。そうすると、主は私の心の中の聖霊の動きに対する鈍感さ、柔軟性の無さ、思い煩いなどを照らしてくださいました。私は照らされた罪を一つずつ告白し、対処しました。そして、聖霊と喜びで満たされました。主との交わりの中で、主が残る実を増し加えられるという信仰を与えてくださいました。その後、自分の姉妹に負担を交わり、福音と牧養を実行しました。毎年、主は最後の3ヶ月間に幾つかの残る実を加えてくださいました。**ヨハネ 15:2** 私にある枝で実を結ばないものはすべて、彼は取り去られる。そして実を結ぶ枝はすべて、もっと実を結ぶようと、彼は手入れされる。まとめると、**①**増殖のために切迫感を持って主と個人的に交わる**②**交わりの中で照らされた罪、欠点、弱さを告白する**③**聖霊で満たされ、増殖に関する信仰の確信を得る**④**負担を他の人に交わり、出て行って残る実を結ぶ

この証しには祝福と失敗の両面があります。上記の4点の経験は祝福です。しかし、9月の再評価では遅いこと(自己満足に陥っている)と他者を巻き込む力が不十分であったという点は失敗の経験です。

**祈り:**「主イエスよ、バビロンの原則とは、人のものを神の御言葉と混合させることであり、肉のものを霊のものと混合させることです。召会の奉仕に自分からのものを持ち込むことを恐れます。私の心の各部分を照らし、私の隠れた罪、欠点、弱さを暴露してください。主に向きを変え、土地の隅々まで提供して御言葉を受け入れる良き地の心を持たせてください。そして主との交わりの中で信仰の確信を得て、バイタルグループの目標達成のために兄弟姉妹と一つ心で取り組んで前進できますように」。